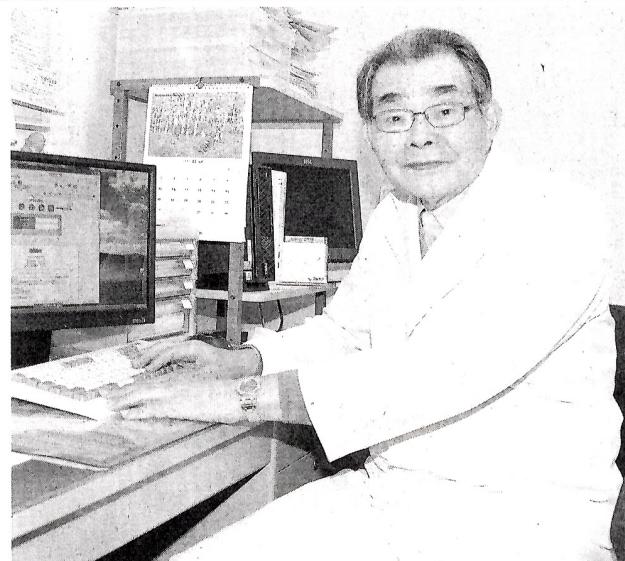


日本医師会

患者の情報共有

小西さんに最高優功賞



インターネット上の仮想病院づくりに尽力した小西さん
(橋本市で)

開業医で元伊都医師会長の小西紀彦さん(76)(橋本市隅田町芋生)に、日本医師会から最高優功賞が贈られた。地域の医療機関が患

者の医療情報を共有するインターネット上の「仮想病院」を、全国に先駆けて開設したことなどが評価された。この取り組みは、来春

から小学校の教科書で紹介される。

小西さんは1995年から7年間、橋本市と伊都郡をエリアとする伊都医師会の会長を務め、仮想病院を考案。同医師会が2002年に「ゆめ病院」と名付けた医療情報ネットワークシステムを開設した際、初代院長となつた。

ゆめ病院は、複数の医療機関が保有する患者の病歴や診療内容、服薬、患部の画像などの情報を集積。医療機関は、カルテが手元になくとも患者の情報を把握でき、検査や投薬の重複を避けながら、迅速に治療を行えるという。

現在、同意を得た患者約

最高優功賞は、地域医療の充実などに貢献した医師をたたえるもので、今年度は全国で15人、県内では小西さんだけが選ばれた。

小西さんは「どこの病院が閉鎖されても、情報は別の病院で活用できる。また往診先でもタブレット端末で利用できるなど、ゆめ病院の意義は大きい。今回の受賞でゆめ病院の評価が高まり、全国的に広がってくれるところらしい」と話している。

日本文教出版が来春発行する小学5年生用の社会科の教科書では、ゆめ病院の仕組みや活用方法などが写真やイラスト入りで紹介されている。奈良県五條市を含めて医師約40人が利用している。訪問看護にも生かされており、伊都歯科医師会や伊都薬剤師会との連携も進んでいる。